

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

| | |
|------|-----|
| ① 国語 | 20人 |
| ② 算数 | 20人 |
| ③ 理科 | 20人 |

5 留意事項

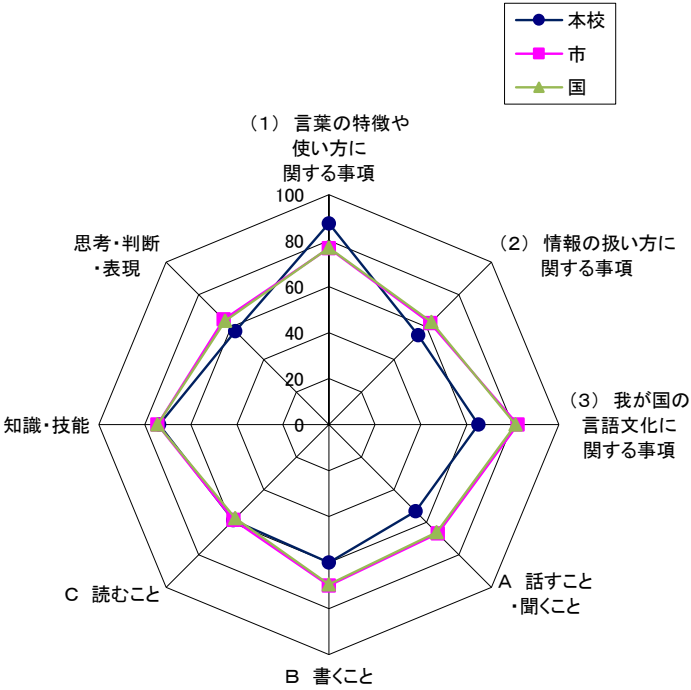
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原北小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 国 |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 87.5 | 76.7 | 76.9 |
| | (2) 情報の扱い方にに関する事項 | 55.0 | 62.4 | 63.1 |
| | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 65.0 | 82.1 | 81.2 |
| | A 話すこと・聞くこと | 53.3 | 67.0 | 66.3 |
| | B 書くこと | 60.0 | 70.0 | 69.5 |
| | C 読むこと | 58.8 | 58.6 | 57.5 |
| 観点 | 知識・技能 | 73.8 | 74.5 | 74.5 |
| | 思考・判断・表現 | 57.5 | 64.6 | 63.8 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

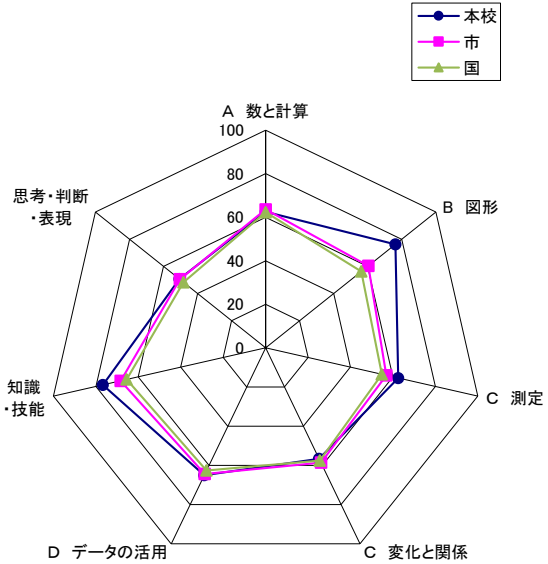
| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|--|---|
| (1) 言語の特徴や使い方にに関する事項 | 平均正答率は、市より10.8ポイント、国より10.6ポイント高い。 ○平仮名になっている部分を漢字に書き直す問題では、市や国の正答率より高い。 | ・漢字については、既習の漢字について、確認テストなどを計画的に行ったり、家庭学習等で取り組ませたりするなど、継続的に指導し、着実な定着を目指していく。また、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるようにする。 |
| (2) 情報の扱い方にに関する事項 | 平均正答率は、市より7.4ポイント、国より8.1ポイント低い。 ●話合いの記録の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する問題では、市や国の正答率より低い。 | ・話合いの場面では、話合いの記録を取る活動を設け、話した内容が参加者に伝わるようにまとめることを意識するよう指導する。その際、相手のことを意識しながらまとめる力を伸ばすために、互いに読み合い、助言する活動を行う。また、社会科や総合的な学習の時間など、他教科でも取り組み、定着を図る。 |
| (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 平均正答率は、市より17.1ポイント、国より16.2ポイント低い。 ●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを答える問題では、市や国の正答率より低い。 | ・物語文だけでなく、様々な目的で書かれた文章や、レポートやレシビ、メモなど様々な形態の文章などにも触れられるよう、日々の読書を奨励したり、図書館司書と連携した読書活動を取り入れたりするようにする。 |
| A 話すこと・聞くこと | 平均正答率は、市より13.7ポイント、国より13.0ポイント低い。 ●話合いの様子における発言を説明したものとして適切なものを選択する問題では、正答率が国より23.3ポイント低い。 ●話合いの中で発言した理由として適切なものを選択する問題では、正答率が国より13.7ポイント低い。 | ・授業や学級活動などでの話合い活動を充実させ、話し手・聞き手、それぞれの立場から意見や考えを伝える経験を積ませる。 |
| B 書くこと | 平均正答率は、市より10.0ポイント、国より9.5ポイント低い。 ●文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する問題では、正答率が国より15.5ポイント低い。 | ・日常生活の中で、授業の振り返りや短作文などを多く取り入れ、目的や意図、内容に応じて自分の意見を整理しながら書く力を養う。 ・書きたいことを相手に伝わりやすく表現するために、必要な項目を提示し、文章の構成の方法を考えてから、文章を書くことができるように指導する。 |
| C 読むこと | 平均正答率は、市より0.2ポイント、国より1.3ポイント高い。 ○資料を読み、空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する問題では、正答率が国より8.7ポイント高い。 ●話合いのときの発言の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する問題の正答率は、国より5.8ポイント低い。 | ・自分の意見を持ち、多様な視点や考えをもちながら文章を読み解くことを示し、自分の考えをまとめる活動を計画的に取り入れ、友達と伝え合ったり、話し合ったりする時間を設け、考えを広げたり、深めたりする経験を積ませる。 |

宇都宮市立清原北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|----|---------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 国 |
| 領域 | A 数と計算 | 62.5 | 63.6 | 62.3 |
| | B 図形 | 76.3 | 60.4 | 56.2 |
| | C 測定 | 62.5 | 56.9 | 54.8 |
| | C 変化と関係 | 56.7 | 58.6 | 57.5 |
| | D データの活用 | 65.0 | 64.4 | 62.6 |
| 観点 | 知識・技能 | 76.7 | 68.3 | 65.5 |
| | 思考・判断・表現 | 50.7 | 50.4 | 48.3 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

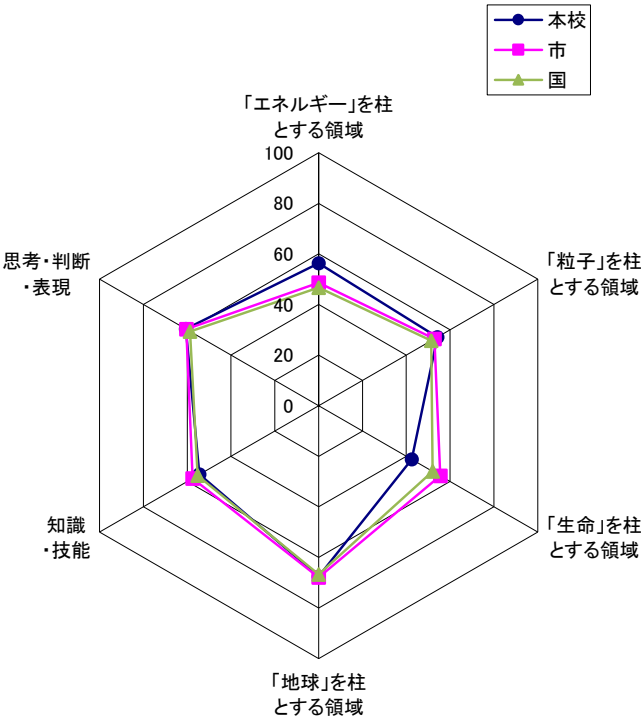
| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|---|---|
| A 数と計算 | 平均正答率は、国とほぼ同じである。 ○異分母の分数の加法の計算や棒グラフから項目間の関係を読み取る問題では、正答率がそれぞれ90.0%で国より約10ポイント高い。 ●示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する問題では、正答率が国より14.5ポイント低い。 | ・基礎・基本事項について、計算ドリルやAドリル等を活用し繰り返し解いたり、復習問題を朝の学習や家庭学習の中で進んで行ったりし、学習内容の定着を図る。 ・日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、数量の関係に着目し、数の処理の仕方を身に付けさせていく。 ・問題を解く際は、「どのように問題を解決すればよいのか」という見通しをもたせ、その理由を式や言葉、図などを用いて説明したり、自分の考えが相手に伝わるように発表したりする場面を設ける。 |
| B 図形 | 平均正答率は、市より15.9ポイント、国より20.1ポイント高い。 ○平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する問題では、正答率が85.0%で国より26.7ポイント高い。 ○角の大きさについて理解しているかをみる問題の正答率は、90.0%で国より10.7ポイント高い。 | ・デジタル教科書等のICTを活用して図形を視覚的に捉えたり、プログラミングを行って図を描くなどの体験的な学習活動をしったりし、図形の性質の理解を深める。 ・作図の学習では、図形の性質を生かした作図の仕方について考察したり、コンパスや定規を用いて実際に図形を描く際は、個に応じた丁寧な指導を行ったりしていく。 |
| C 測定 | 平均正答率は、市より5.6ポイント、国より7.7ポイント高い。 ○はかりの目盛りを読む問題では、正答率が国より14.1ポイント高い。 | ・長さ、重さ、広さ、かさなどの身の回りの量について、実際に比べる活動を行うことで、その概念や測定方法を理解させるとともに、量についての感覚を豊かにしていく。 |
| C 変化と関係 | 平均正答率は、市や国より低い。 ○「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを答える問題では、正答率が国より9.1ポイント高い。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出す問題では、正答率が国より12.8ポイント低い。 | ・日常生活において活用されている場面を取り上げ、伴って変わる二つの数量の変化や対応の特徴を考察していく。 ・考えを言葉で説明するだけでなく、自分の考えが相手に伝わるように言葉や数、図を使って記述する機会を設けたり、記述したものを使って発表したりする場面を設ける。 |
| D データの活用 | 平均正答率は、市より0.6ポイント、国より2.4ポイント高い。 ○目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題では、正答率が国より14.0ポイント高い。 ●二次元の表から、条件に合った項目を選ぶ問題の正答率は、国より1.6ポイント低い。 | ・様々な場面で、いろいろなグラフの数値の読み取り方を確認したり、目的に応じて適切なグラフを選択したりする活動を取り入れていく。 ・グラフから読み取ったことを、言葉や数値を用いて互いに説明し合うことができるように、学習形態を工夫していく。 |

宇都宮市立清原北小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 国 |
| 領域 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 56.3 | 48.6 | 46.7 |
| | 「粒子」を柱とする領域 | 54.2 | 52.8 | 51.4 |
| | 「生命」を柱とする領域 | 42.5 | 55.5 | 52.0 |
| | 「地球」を柱とする領域 | 67.5 | 67.9 | 66.7 |
| 観点 | 知識・技能 | 54.4 | 57.5 | 55.3 |
| | 思考・判断・表現 | 60.6 | 60.4 | 58.7 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------|--|---|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | 平均正答率は、市より7.7ポイント、国より9.6ポイント高い。 ○電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ問題の正答率は、国より22.1ポイント高い。 ○乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ問題の正答率は、国より9.9ポイント高い。 | ・児童に実践的な実験と体験を増やすことで、視覚的・触覚的に電気の通り道を理解できるように取り組む。また、意図的に間違った回路を組ませ、なぜ電気が通らないのか、どうすれば電気が通るのかを児童に考えさせる時間を設け、電気回路の条件や原理をより深く理解できるようにする。 ・児童に、感覚的な理解だけでなく、数値で変化を捉えたり、視覚的に比較したりする実験を取り入れることで、より理解できるようにする。 |
| 「粒子」を柱とする領域 | 平均正答率は、市より1.4ポイント、国より2.8ポイント高い。 ○水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ問題の正答率は、国の平均より5.8ポイント高い。 ●水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く問題の正答率は、国の平均より0.6ポイント低い。 | ・実験の際に、「何を」「どのように」「何と比べるか」を明確にしたり、「同じ量の水を使う」「同じ時間温める」など、条件を揃えることで、条件を揃えないと、何が原因で結果が変わったのか分からなくなることを児童に伝えたりすることで、実験の課程を学習させるようにする。 ・実験結果から何が言えるのか、予想は正しかったのか、もし違っていたら何が原因か、次の疑問は何か、といった考察を行うよう指導していく。 |
| 「生命」を柱とする領域 | 平均正答率は、市より13.0ポイント、国より9.5ポイント低い。 ●ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く問題の正答率は、県の平均より10.7ポイント低い。 ●ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ問題の正答率は、国の平均より15.6ポイント低い。 | ・ヘチマの観察で児童に、雄花のおしべ(花粉がある部分)と雌花の中心にあるめしべ(柱頭、花柱、子房)を実際に触らせたり、拡大鏡で観察させたりし、花の構造を深く理解できるよう支援する。 ・顕微鏡の使い方を指導する際に、単に操作方法を教えるだけでなく、「なぜ粗動ネジで大まかに合わせるのか?」「なぜ微動ネジで微調整するのか?」「なぜ絞りで光の量を調整するのか?」といった「なぜ」を考えさせることで、操作の意味を深く理解させる。 |
| 「地球」を柱とする領域 | 平均正答率は、市より0.4ポイント低く、国より0.8ポイント高い。 ○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を書く問題の正答率は、県の平均より14.5ポイント高い。 ●【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ問題の正答率は、国の平均よりも12.8ポイント低い。 | ・実験の計画を立てる際に、予想通りになったらどのような結果になるのかを具体的に考えさせることで、児童の理解を深めるようにする。 ・粒の大きさの実験を行った後、砂、粘土、腐葉土など、他の種類の土壌でも同様の実験を行い、粒の大きさからどのような結果が出るのか考えさせることで、より理解を深められるよう支援する。 |

宇都宮市立清原北小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問では、肯定回答が100%であった。今後も学校行事等、児童が活躍する場を積極的に設け、児童の頑張りを認め、褒め、励ます指導を続けていく。

○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどのくらいありますか」の質問では、肯定回答が100%であった。今後も児童たちが幸福感をもち、学校生活が送れるよう支援していきたい。

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の質問では、肯定回答が100%であった。これからも、間違えた部分をそのままにせず、個別最適な学びを目指し、指導していきたい。

○ICTに関する質問では、学校の様々な場面で活用している様子が分かる。さらに、「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT聞きで文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができますと思いますか」という質問では、肯定割合が100%であった。今後も、使うことを目的にするのではなく、活用することで一人一人の学習支援につながるような活用方法を考え、実施していきたい。

●「国語の勉強が得意ですか」の質問では、肯定回答をしている児童が少ない。また、「国語の勉強が好きですか」の質問でも、肯定回答をしている児童が少ない。このことから、児童が国語の学習に苦手意識を感じていることが分かる。今後は、児童が意欲的に学習に取り組めるよう、教材研究を続けていきたい。

●「算数の勉強が得意ですか」の質問では、肯定回答をしている児童が少ない。また、「算数の勉強が好きですか」の質問でも、肯定回答をしている児童が少ない。このことから、児童が算数の学習に苦手意識を感じていることが分かる。しかし、「算数の授業の内容はよく分かりますか」の質問では、肯定的回答をした児童が75%であった。このことから、児童は算数の内容は理解しているが、算数を楽しんでいる児童が多いことがわかる。今後は、児童が楽しいと感じる授業ができるよう、教材研究を続けていきたい。

宇都宮市立清原北小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|------------------------------------|---|---|
| 児童一人一人の達成感や 成就感を高めるための指 導の工夫 | ・学習意欲を高める導入の工夫や、めあ ての提示と見通し、学習の振り返りを徹 底した授業づくり ・ユニバーサルデザインの視点を取り入 れた教材や授業展開の工夫 ・デジタル教材やタブレット等のICT機器 の効果的な活用 | 「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学 校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成すること ができると思いますか」という質問では、肯定割合が国・ 県の平均を上回った。また、「あなたは自分がPC・タブ レットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを 書くなど)ことができますと思いますか」という質問では、肯 定割合が100%であった。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|--|---------------------------------|--|
| ・児童質問紙において、「国語の勉強は 得意ですか」「国語の勉強は好きですか」 「算数の勉強は得意ですか」「算数の勉 強は好きですか」という質問に対して、肯 定割合が国や県の平均を下回っている。 | ・基礎・基本の定着 ・学習意欲を高めるための 工夫 | ・基礎的・基本的な学習内容を確実に習得するよう、一人 一台端末を活用し、反復練習を行い、定着を図る。 ・国語では、語彙力を増やすために、辞書を引く習慣を身 に付けさせたり、読書をする機会を設けたりする。 ・算数の文章問題では、問題文にあるキーワードがどの 計算に対応するかを考えさせたり、図や式で整理させたり して、正しく立式できるようにする。 ・意欲を高められるよう、成功体験を積み重ねさせたり、 結果だけでなく頑張った過程を認めたりするようにする。 |